



社会連携研究部門の関係者

オリコンと東大 都市街路スマート・モビリティ学 社会連携研究部門を設置

オリエンタルコンサルタンツと東京大学生産技術研究所は16日、東大生研に「都市街路スマート・モビリティ学」社会連携研究部門を設置した。両者が持つ英知を結集して、大きな変革期にあるモビリティ

イのスマート化に対応した新たな都市内街路の計画・交通マネジメントに関連する基礎的な理論と技術を体系化し、「自由に自立して安全・快適に環境・人・まちにやさしく、皆が、モノが、サービ

スが移動できるモビリティ・ダイバイドのない社会」の実現に貢献していく。設置期間は2028年3月31日まで。研究活動費の総額は約1億1000万円。

SDGs（持続可能な開発目標）やインクルーシブ社会の実現に向けた技術を体系化する。都市内街路の新たな交通マネジメントを実装するため必要な技術の体系化も図り、都市内街路のり・デザイン、スマート・モビリティの実現手法を解明する。

連携体制は次のとおり。
〈オリエンタルコンサルタンツ〉
▽竹平誠治事業推進本部スマートモビリティ推進室室長▽若松美弥同スマートモビリティ推進室副主幹▽渡部教樹関東支社交通政策部副部長▽梅田祥吾同交通政策部副次長。

〈東大生研〉
▽大口敬特任教授（兼務）▽本間裕大特任准教授（同）▽平岩洋三特任准教授（同）▽鳥海梓特任助教（同）▽池谷風馬特任助教▽羽佐田紘之特任助教。